

竹細工の技法：縁の仕上げ、染色、塗装

竹かごの縁は、かごがほつれないようにひごをまとめる仕上げとして行われます。

かごの縁の技法は主に六つあります。巻き縁（竹または籐で籠の縁を巻いていく技法）、平当て縁（平らな竹ひごを籠の縁の内と外の両側にあて、籐などの細いものを使って固定する技法）、桎割り当て縁（数本の細い竹ひごが縁に沿ってあて、縛って固定する技法）、釘止め当て縁（内側と外側の縁を釘で固定する技法）、矢筈縁（高名な職人の生野祥雲斎がつかった技法で、かごの本体に使用されている編みひごをそのまま使い、一体型の縁を作る技法）そして、輪弧消し縁（これもかご本体の編みひごを使うが、個別の縁というよりも全体のデザインの一部としてまとめる技法）

着色（茶色の色合いが多い）は、染料の使用、化学薬品を用いた加熱による着色、高温と高圧を加えて竹の成分を変え、すすけた色を生成する方法があり、または漂白することもあります。

元来、竹の道具や製品は、素材の軽さと吸水性などの素材の特性を生かすように作られていたため、塗装を行うことはありませんでした。しかし、現代のインテリアや調度品では、美しさを高めたり、耐水性を高め、素材を長持ちさせるために塗装処理することがあります。漆、天然および合成樹脂塗料、オイル、ワックス、シリカ、有機溶剤などが使用されます。